

神戸新聞
支店長の
視点

長江 敬氏



当地に赴任して1年余りがたちました。この間、コロナ禍の影響でプライベートでは県内観光やグルメを満喫できずにいるのが残念ですが、業務上の必要性から県内各地を訪れる機会は何とか得られています。

その中で改めて感じるのは、兵庫県が、歴史や産業などの異なる個性豊かな五国で構成され、大都市から農山村、島々までさまざまな地域と多様な気候・風土を有していることです。

多様性を持つ一方、多くの面で共通していると思われるのが、他地域にはないセンスの良さです。例えば街並みでは、異国情緒の漂う神戸市内、壮麗な姿を誇る姫路城、昔ながらの風情が残る篠山城下町、浴衣姿

グッドセンスな兵庫

で外湯を巡れる城崎温泉街、多種多様な花が咲き誇る淡路島内など、「すてきな場所」に溢れています。

センスの良さは、産業面でも当てはまるように思われます。清酒や豊岡靴など約40種類の地場産業が今でも続いているのは、経営センスに優れていたことによる面が大きいはずです。

また、これまで鉄鋼業や機械工業など日本経済を代表する産業を育成し、近年では、今後の成長分野として注目される医療関連や環境関連に対して、他地域に先んじて取り組みを進める高い感度があります。

ただし、アスリートや芸術家などと同様、センスの良さだけでは成長に限界があります。それを当県のさらなる発展につなげられるか否かは、当地に集う企業や自治体、そして人々次第です。現状は感染症の影響で厳しい状況が続いていますが、コロナ収束後を見据え、潜在力を活かした取り組みが期待されます。